

## 1. 実況上の着目点

- ① 東北地方を東北東進する低気圧から、前線が東～西日本にのびている。前線に向かって流れ込む日本の南の高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、九州南部では強い雨を解析、雷を多数検知。東日本ではやや強い雨を解析。また、北～西日本太平洋側では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。
- ② モンゴル付近の500hPa 5580m以下の寒冷渦を回る、500hPa 5700m付近のトラフが華北を東進。
- ③ 500hPa 5820m付近の強風軸

に対応して前線が華中にのびている。また、15日3時に台風第1号から変わった熱帯低気圧が華南を北東進。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 15日は、1項①の低気圧が日本の東に進み、寒冷前線が東日本太平洋側に進む。
- ② 1項②のトラフは、15日は黄海付近に、16日は日本海に、17日はオホーツク海に進んで不明瞭になる。これに対応して、16日は、朝までに日本海で発生する低気圧が東北東に進み、寒冷前線が西日本にのびる。17日は、この低気圧が北海道地方を通過して、寒冷前線が西～北日本を通過する。
- ③ 1項③の熱帯低気圧は、16日朝までに、華中の前線と一体化しながら、前線を伴う温帯低気圧となって東シナ海に進み、16日夜までに2項②の低気圧からのびる寒冷前線と一体化する。
- ④ 2項①～③の前線や低気圧に向かう下層暖湿気や日中の昇温の影響で、全国的に17日にかけて、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。西日本では、これまでの大雨の影響で地盤の緩んでいる所がある。東日本では15日は、西日本では16日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。
- ⑤ 2項①～③の前線や低気圧の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。西～東日本と南西諸島では17日にかけて、北日本では15日と17日は、強風や高波に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

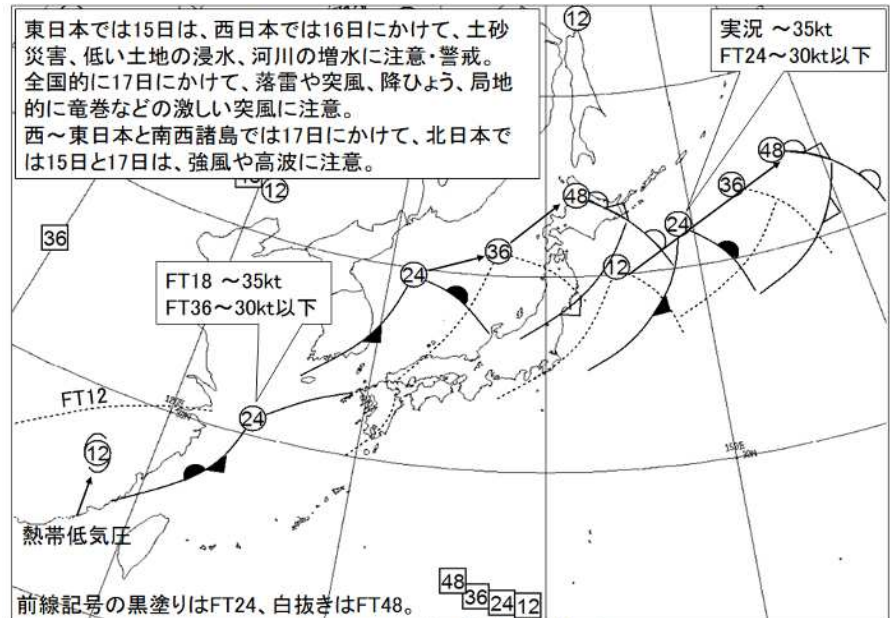
総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(18時からの24時間)：九州北部120、九州南部100mm。
- ② 波浪(明日まで)：九州北部・九州南部・奄美4、関東・伊豆諸島・東海・沖縄3m。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東～西日本では注意報基準を超過する所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無

「雷と突風に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図